

七、胎児は知っている——次元が違う母親の体内

(ページ『反省の日々』参照)

先生にお会いしてから、私は二年目になっていたんですね。その頃は、施設を回りながら、自分で先生が仰っている反省というものを続けていったんです。

とにかく、やり始めたら徹底的にやろうと、幼い時から、現在に至るまで、微に入り細にわたって反省をしてみたんですね。

その反省の中で、実は未だに強烈に残っている事があるんです。幼い時の三歳位までは思い出すのですが、一歳〜二歳までの事がどうしても思い出せない。それを一所懸命に分かろう分かろうといろんな方法で突っ込んでいった。

そうしたら或る時に、眼を閉じて反省をしていたら、お腹の中にいる赤ん坊の姿が(心の眼で)観えた訳ですよ。一言で観えると言っても、これは変ですけどもね、お腹に入って逆さになった赤ん坊が出て来て、「これは、一体何だろうな? これは

錯覚さくかくじゃないかな」と思おもって、眼めを開ひらく。また静しずかに眼めを瞑つむると、また出て来る。

——実は、これは自分が母親のお腹の中なかにいる時の姿すがただったんですね。その時には、吃驚びっくりしてしまいましたねえ。

これは最近さいきん、私が他所よそこで話をした時に、お腹の大きい人に、「光を入れてください」と言いわれて、光ひかりを入いれたんですね。ズーツと光ひかりを入いれて暫しばらくくしたら、その中なかから声こゑが聴きこえてきた。「あれ、何か言いってるな」と思おもった訳わけですよ。そして、よく聴きいてみると、実はお腹の中なかの赤あかん坊ぼくが、

「親おやが喋しゃべっている事こと、行おこなっている事こと、全部分ぜんぶんかります」

と言いうんです。これには私も吃驚びっくりしましたねえ。そして、そのお腹の子こが、

「親おや以外の人の一挙手一投足いっしゅしゅいつとうそくも、みんな分わかります」

と、言いうんですよ。これにはドキンですね。へツと思おもいましたよ。

そしてそのお腹の子こ供どもが言いっている事ことを親おやに訊たずねてみたら、本当にその通りなんですよ。無ない事ことは言いいませんよね。

これは以前いぜんにも、悪阻つわりが酷ひどいご婦人ふじんに光ひかりを入いれた事ことがあるんですね。夫ふう婦ふで

私の処たずに訪たずねてみえた。

「先生うち、家の奴やつは七ヶ月ななつきにもなるのに、悪阻つわりが酷ひどくて大変たいへんなんです。どうしてなんでしょうか？」

悪阻つわりの中には、食たべ物ものが合あわないとか、以前いぜんに生うまれた国くにの食く事じと、今回こんかい、日本にっぽんに初はじめて出でて来きて、例たとえば、野菜食やさいしょくが合あわない場合ばあいとか、母親ははとの考かんえ方かたが違ちがうとか、そういうものもので出でて来きる訳わけです。

悪阻つわりというののは、本当ほんとうは手当てあて（両手りょうての平ひらで患部かんぶを挟はさむようにする）をして光ひかりを入いれたら良よくなるんですが、この人ひとの場合ばあいは普通ふつうと違ちがって強烈きやうれつなんです。

「奥おくさん、横よこにななってご覧らんなさい」

私は、お腹おなに光ひかりを入いれながら、お腹おなの中なかの子こに訊きいてみた、

「あなたは、おかあさんの意い識しきと不都合ふつごうを起おこして、悪阻つわりが酷ひどいそうだけれども、一体いっどうしたというの？」

「わたしは七ヶ月ななつき目めなんですけれど、実はわたしの両親りやうしんになる人ひと達は、わたしが生まれる事ことを祝福しゆくふくしてくれません。ですから、心こゝろの中なかが穏おだやかではありません」

そう言うんですね。

「お宅たくらは、お腹の赤ん坊が『二人が、生まれて来る事を喜んでくれない』と言っているけれど、夫婦でそんな事を言っていたの？」

「えっっ？」

二人とも顔色かおいろがサツと変わってしまった。

「なんだ、言っているんだね」

「……はあ、実はそうなんです。お腹が大きくなるまで墮おろそうか、どうしようかと
言っていました」

「お腹の赤ん坊がそう言ってるよ」

「えっっ！」

その赤ん坊が、もう一つ言った、

「わたしより先に出た、姉あねに対しても、二人は同じ事を言っていました」

「あなた達は、先に生まれた子供にも同じ事を言ったでしょうが——」

「えっっ……はい、すみません。でも先生……何故そんな事が分かるのですか」(笑)

「お腹の子が全部話してくれるんだよ」

「えっっ！」

もうこの二人、驚おどろいてばかり——。(笑)

そしてこういう話もありますね。妊娠中のお母さんの子宮しきゅうの中の音おとを録音ろくおんした。

そしてこの赤ちゃんが生まれた。赤ちゃんが泣く時に、その録音した音を聴かせたところ、ピタツと泣き止やんだ。

その音は、川の流れのようなザーツという音。これは血液けつえきの流れの音なんです。

この音に安心あんしんして泣き止やんでしまう。

そうすると、その録音の中に、お母さんの声と、相手あいての声も全部入っている訳ですよ。赤ん坊は、お腹の中で喋しゃべっている事を全部聴いていますよ。

私はその録音の話を聴いた時に、「あ、私がお腹の子とやり取りする事を証明しょうめいしてくれたな」と、そう思ったんですね。

そうすると、不思議ふしぎでも何でもないんですよ。我々われわれは眼に見えないから、不思議だと言うだけですね。——不思議じゃないんですよ。

そうすると、お母さんのこのお腹の中というのは、我々と次元じげんが違う訳です。お腹の中は四次元じげん以降の世界なんです。コンタクトしてから生まれて来るまでは、胎児たいじの状態の時は、大人なんです。魂なんです。

ところが、生まれて外そとに出たら分からなくなってしまう。人間は五官ごかん（眼・耳・鼻・舌・身）を通すと、分からなくなる。これは、そういうふうに出てくるんですね。これは到底とちうてい、人間の力ではこんな事は出来ないですね。——それが私達なんです。一人一人の肉体を持っている私達です。

それだけ、素晴すばらしいものをみんなが持っているんですよ。

一九八四年三月